



Challenge Zero



リニューアブル燃料の導入で ゼロエミッション達成に挑戦

伊藤忠商事(株)

航空・陸上輸送分野でのカーボンニュートラルを目指す上で大きな注目が集まるリニューアブル燃料。世界的な需要が高まりつつある中、いかに生産企業と提携した効率的なサプライチェーンを構築し、普及させるかが大きな課題となっている。

そうした中、世界最大のリニューアブル燃料メーカーとの提携をもとに同分野での普及を加速する伊藤忠商事の取り組みを紹介する。

日本初の商用フライト規模での 持続可能な石油代替航空燃料(SAF)供給

伊藤忠商事は『三方よし』による持続的成長の企業理念の下、サステナビリティ上の重要課題の一つに気候変動への取り組みを掲げ、低炭素社会へ寄与する事業活動の推進や温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいる。

その一環として、廃食油などの非可食の油を主な原料に、水素化精製プロセスを経て生産されるリニューアブル燃料であるリニューアブルディーゼル(RD)やSAFの日本での普及に向けてサプライチェーンの構築に取り組んでいる。

同燃料はライフサイクルアセスメントベースで約80%のCO₂排出削減が可能であり、欧州や米国を中心に広く利用されている。伊藤忠商事は2020年10月に世界最大の同燃料メーカーであるNESTE社、全日本空輸と協業し、SAF輸入から空港搬入までのサプライチェーンを構築し、SAFの日本初となる商用フライト規模での供給を実現した。

2022年2月には、NESTE社との間でSAFの



日本市場向け独占販売契約を締結するなど、2030年までに航空燃料の10%をSAFに置き換える

との政府目標に向け、足元を固めている。

また将来的には日本での生産体制の確立を目指すべく、2021年度から4年間の予定でJERAらと共同で木質バイオマスを原料とした国産SAFの製造実証なども進めている。

陸上輸送分野でのRD給油拠点運用開始

陸上輸送分野においても、リニューアブル燃料ビジネスに本格参入し、サーキュラーエコノミー、脱炭素社会の実現を目指している。2021年6月には、NESTE社、ファミリーマートとの協働により、RDの日本初となるコンビニ配送車両への利用を実現。配送車両の一部において、軽油に代わる燃料としてRDを100%使用している。

RDは主に輸送用トラック、バス、建機、発電機、小型船舶などで使用されるが、既存の車両や旧関連施設をそのまま使用することができる「ドロップイン」燃料であり、脱炭素施策にかかる導入コストを最小限に抑え、温室効果ガス排出削減にも大きく貢献できる次世代リニューアブル燃料として、今後の陸上分野での更なる利用拡大が期待されている。

今後も伊藤忠商事は中期経営計画の基本方針に掲げるSDGsへの貢献・取り組みの強化を進め、リニューアブル燃料の日本およびアジア市場での導入・普及に取り組み、循環型低炭素社会・持続可能な社会の実現に向けた課題の解決を目指していく。

k

(国内広報部主任研究員 山本哲史)